



Title	hin/her+gehen/kommen の考察 : ニーベルンゲンの歌とトリスタンの原文/現代語訳を資料に
Author(s)	渡辺, 伸治
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2023, 2022, p. 50-59
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/91549
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

渡辺伸治

1. はじめに

渡辺（印刷中）では、gehen/kommen（以下、g/k）、hin/her のダイクシス性、視点性は現代語と中高語で違いがあるのか、あるとすればどのような違いかを、主に統計的な観点から考察した。hin/her に関しては、g/k と共起している場合のみを考察対象としたが、主な結論は、hin/her は視点性、ダイクシス性自体の変化は見られないが、現代語のほうが g/k 総数に対する出現率が高く、中高語よりも発達しているというものであった。

また、hin/her は、「単一的 hin/her」と「複合的 hin/her」に分類し、複合的 hin/her はさらに dorthin など da/dort/hier/wo と共起した場合と、hinaus などの前置詞と共起した場合に下位分類した。その上で、現代語では特に複合的 hin/her、その中でも前置詞と共起した場合の複合的 hin/her の発達が見られることを述べた。

しかし、渡辺（印刷中）で使用した統計は hin/her+g/k 総数の統計であり、hin+gehen, her+gehen, hin+kommen, her+kommen に分割、細分化したものの統計ではなかった。本稿の目的は、渡辺（印刷中）の補足として細分化した統計を提示し、hin/her+g/k の組み合わせの違いにより出現率の違いがあるのか、あるとすればどのような違いかを考察することである。¹

なお、渡辺（印刷中）では、hin/her+g/k を階層的にまず単一的 hin/her と複合的 hin/her に分類し、さらに複合的 hin/her を dorthin のような場合と hinaus のような場合に分類した。しかし、この方法では、これら三つのタイプの相対的な出現率の違いがわかりにくいため、本稿では三つのタイプを同じレベルで分類した統計を用いる。

また、本稿では、渡辺（印刷中）の「単一的 hin/her」「複合的 hin/her」という用語は「単一 hin/her」「複合 hin/her」に変更する。さらに、複合 hin/her のうち dorthin などのような場合を「D 複合 hin/her」、hinaus などのような場合を「P 複合 hin/her」と名付けることにする。

用いる資料は渡辺（印刷中）で用いたニーベルンゲンの歌（NL）とトリスタン（TR）の原文と現代語訳がパラレルになっているそれぞれ二つの版である。²

¹ 考察は、組み合わせによる違いがより多様に現れる現代語訳を中心におこなう。以下では、原文ではどの組み合わせであっても単一タイプが優勢であったものが、現代語訳でも基本的には P 複合タイプが優勢になるが、一部の組み合わせでは単一タイプ、D 複合タイプが優勢になることを見る。

² NL は以下のものである。それぞれ BR, SCH と略す。BR: *Das Nibelungenlied. Mittelhochdeutscher Text und Übertragung*. Hrsg., übersetzt und mit einem Anhang versehen von H. Brackert. Fischer. 1970 (Teil 1), 1971 (Teil 2). SCH: *Das Nibelungenlied. Mittelhochdeutsch/Neuhochdeutsch*. Nach der Handschrift B, hrsg. von U. Schulz. Ins Neuhochdeutsche übersetzt und kommentiert von S. Grosse. Reclam Universal-Bibliothek. 2011. TR は以下のものである。それぞれ KR, H と略す。KR: Gottfried von Straßburg: *Tristan*. Nach dem Text von F. Ranke, neu hrsg. ins Neuhochdeutsche übersetzt, mit einem Stellenkommentar und einem Nachwort von R. Krohn. 3 Bde. Reclam Universal-Bibliothek. 1993. H: Gottfried von Straßburg: *Tristan und Isolde*. Hrsg. von W. Haug und M. G. Scholz. Mit dem Text des Thomas, hrsg. übersetzt und kommentiert von W. Haug. 2 Bde. Deutscher Klassiker Verlag. 2011.

2. 原文の hin/her+g/k

本章では原文を対象に考察する。まず hin/her+g/k 総数に関する表 1 である。

	g/k 総数	hin/her+g/k 総数		単一 hin/her		D 複合 hin/her		P 複合 hin/her	
NL 原文	775	57	7.4%	46	80.7%	6	10.5%	5	8.8%
TR 原文	848	93	11.0%	67	72.0%	16	17.2%	10	10.8%

表 1 原文における hin/her+g/k の出現数（率）

表の左から、g/k 総数³、hin/her+g/k 総数と g/k 総数に対する出現率、hin/her+g/k 総数を単一 hin/her、D 複合 hin/her、P 複合 hin/her の三つのタイプに下位分類した場合の出現数（率）である。下位分類の三つのタイプの％は、hin/her+g/k 総数が 100%になるように計算してある（以下同様）。太字はもっとも出現率が高いタイプである（以下同様）。

表からは、渡辺（印刷中）同様、NL/TR ともに原文では単一 hin/her の出現率が著しく高く、D 複合、P 複合 hin/her は発達していないことが見て取れる。また、hin/her+g/k 総数のイタリックの部分からは、TR のほうが hin/her+g/k の出現率が高いことがわかる。さらに、単一 hin/her は TR のほうが出現率が低く、D 複合、P 複合 hin/her は TR のほうが出現率が高い。渡辺（印刷中）では、g/k に関し TR のほうが現代語に近い性質を持つ環境があることを見たが、hin/her+g/k に関しても TR のほうが現代語に近いといえよう。

続けて、g/k 総数を g 総数と k 総数に分割し、hin/her+g/k 総数を hin+g、her+g、hin+k、her+k に細分化した場合の出現数（率）の表 2 から表 5 である。⁴

	g 総数	hin+g 総数		単一 hin		D 複合 hin		P 複合 hin	
NL 原文	401	31	7.7%	24	77.4%	5	16.1%	2	6.5%
TR 原文	382	35	9.2%	24	68.6%	9	25.7%	2	5.7%

表 2 原文における hin+g の出現数（率）

	g 総数	her+g 総数		単一 her		D 複合 her		P 複合 her	
NL 原文	401	10	2.5%	8	80.0%	0	0.0%	2	20.0%
TR 原文	382	16	4.2%	13	81.3%	1	6.3%	2	12.5%

表 3 原文における her+g の出現数（率）

	k 総数	hin+k 総数		単一 hin		D 複合 hin		P 複合 hin	
NL 原文	374	5	1.3%	3	60.0%	1	20.0%	1	20.0%
TR 原文	466	17	3.6%	11	64.7%	4	23.5%	2	11.8%

表 4 原文における hin+k の出現数（率）

³ 原文、現代語訳ともに非分離動詞の g/k は含まない。

⁴ 以下、細分化した統計では出現数が 0, 1 など極めて少ない場合も見られる。このような場合には、出現数のわずかな変動であっても出現率が大きく変動し、出現率の妥当性に疑問が残ることには留意が必要である。特に母集団の数が少ない場合には留意が必要である。

	k 総数	her+k 総数		単一 her		D 複合 her		P 複合 her	
NL 原文	374	11	2.9%	11	100%	0	0.0%	0	0.0%
TR 原文	466	25	5.4%	19	76.0%	2	8.0%	4	16.0%

表5 原文における her+k の出現数（率）

表の太字の部分からは、組み合わせにより若干の違いはあるが、細分化した場合もすべての組み合わせで単一 hin/her の出現率が著しく高いことが見て取れる。hin/her+g/k 総数のイタリックの部分も見ておこう。これは、g/k 総数に対する hin/her+g/k の組み合わせごとの出現率だが、次の順番で出現率が高くなる。

NL: hin+k (1.3%)<her+g (2.5%)<her+k (2.9%)<hin+g (7.7%)

TR: hin+k (3.6%)<her+g (4.2%)<her+k (5.4%)<hin+g (9.2%)

NL/TR では、いずれにせよ hin+g の出現率がもっとも高く、hin+k の出現率がもっとも低い。出現率の増加の順番に違いはない。ただし、すべての組み合わせで TR のほうが NL よりも出現率が高い。これは hin/her+g/k 総数を対象とした表1に反映している。

3. 現代語訳の hin/her+g/k

3.1. hin/her+g/k 総数の統計

まず hin/her+g/k 総数を対象とした表6である。

	g/k 総数 ⁵	hin/her+g/k 総数		単一 hin/her		D 複合 hin/her		P 複合 hin/her	
NL/BR	393	88	22.4%	7	8.0%	32	36.4%	49	55.7%
NL/SCH	498	60	12.0%	20	33.3%	18	30.0%	22	36.7%
TR/KR	438	95	21.7%	24	25.3%	27	28.4%	44	46.3%
TR/H	373	85	22.8%	23	27.1%	25	29.4%	37	43.5%

表6 現代語訳 hin/her+g/k の出現数（率）

表からは、どの現代語訳でも P 複合の出現率がもっとも高いことがわかる。⁶ これは、これから三つのタイプを階層的に分類した渡辺（印刷中）の結論と同じである。

また、訳者のスタイルによる出現率の違いも見られる（表の枠付きの出現率）。すなわち、TR/KR と TR/H では出現率の違いがほとんどないが、NL/BR と NL/SCH では、NL/SCH の hin/her+g/k 総数の出現率(12.0%)が低く、NL/BR の単一 hin/her の出現率(8.0%)が著しく低い。これらの出現率はTRと比較しても大きく違うが、前章で見たようにNL原文の hin/her+g/k 総数の出現率は 7.4%であり、単一 hin/her の出現率は 80.7%である。相対的に見て NL/SCH のほうが原文に近いことになる。渡辺（印刷中）では、Hoffmann (2004) が NL/BR は原文を

⁵ 表6の g/k 総数が原文を対象とした表1と著しく異なるのは、本稿で利用したデータベースは原文の g/k の現代語訳での訳出状況を調査しているため、現代語訳のデータには現代語訳が g/k であっても原文が g/k ではないものは含まれていないからである。

⁶ ただし NL/SCH では単一 hin/her も出現率が比較的高く、出現率の違いが小さい。

比較的自由に訳し、NL/SCH⁷は比較的忠実に訳している旨の指摘をしているのを見たが、この指摘は hin/her+g/k 総数、単一 hin/her の出現率に関してもあてはまるといえよう。

3.2. hin+g, her+g, hin+k, her+k に細分化した統計

続けて、g/k 総数を g 総数と k 総数に分割し、hin/her+g/k 総数を hin+g, her+g, hin+k, her+k 総数に細分化した場合の出現数（率）の表 7 から 10 である。

	g 総数	hin+g 総数		単一 hin		D 複合 hin		P 複合 hin	
NL/BR 現訳	130	19	14.6%	4	21.1%	7	36.8%	8	42.1%
NL/SCH 現訳	205	23	11.2%	8	34.8%	9	39.1%	6	26.1%
TR/KR 現訳	164	29	17.7%	11	37.9%	7	24.1%	11	37.9%
TR/H 現訳	154	32	20.8%	9	28.1%	7	21.9%	16	50.0%

表 7 現代語訳 hin+g の出現数（率）

	g 総数	her+g 総数		単一 her		D 複合 her		P 複合 her	
NL/BR 現訳	130	7	5.4%	0	0.0%	0	0.0%	7	100.0%
NL/SCH 現訳	206	6	2.9%	0	0.0%	0	0.0%	6	100.0%
TR/KR 現訳	164	2	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%
TR/H 現訳	154	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

表 8 現代語訳 her+g の出現数（率）

	k 総数	hin+k 総数		単一 hin		D 複合 hin		P 複合 hin	
NL/BR 現訳	263	13	4.9%	1	7.7%	8	61.5%	4	30.8%
NL/SCH 現訳	293	11	3.8%	3	27.3%	4	36.4%	4	36.4%
TR/KR 現訳	274	21	7.7%	5	23.8%	14	66.7%	2	9.5%
TR/H 現訳	219	12	5.5%	2	16.7%	5	41.7%	5	41.7%

表 9 現代語訳 hin+k の出現数（率）

	k 総数	her+k 総数		単一 her		D 複合 her		P 複合 her	
NL/BR 現訳	263	49	18.6%	2	4.1%	17	34.7%	30	61.2%
NL/SCH 現訳	293	20	6.8%	9	45.0%	5	25.0%	6	30.0%
TR/KR 現訳	274	43	15.7%	8	18.6%	6	14.0%	29	67.4%
TR/H 現訳	219	41	18.7%	12	29.3%	13	31.7%	16	39.0%

表 10 現代語訳 her+k の出現数（率）

まず、hin+g, her+g, hin+k, her+k 総数の出現率の順位を簡単に見ておこう。表のイタリックの部分であるが、以下の順位になる。

⁷ Hoffmann (2004) は Grosse 版にもとづいているが NL/SCH の訳は Siegfried Grosse によるものである。

NL/BR: hin+k (4.9%)<her+g (5.4%)<hin+g (14.6%)<her+k (18.6%)

NL/SCH: her+g (2.9%)<hin+k (3.8%)<her+k (6.8%)<hin+g (11.2%)

TR/KR: her+g (1.2%)<hin+k (7.7%)<her+k (15.7%)<hin+g (17.7%)

TR/H: her+g (0.0%)<hin+k (5.5%)<her+k (18.7%)<hin+g (20.8%)

NL/BR 以外では hin+g 総数の出現率がもっとも高い。原文でも hin+g 総数の出現率がもっとも高く、現代語訳でも変動は見られない。her+g 総数の出現率が低い理由は次に述べる。

それでは表を細かく見ていこう。第一の問題は表 8 の her+g の特殊性である。上で her+g 総数の出現率が低いことを見たが、これは、現代標準語の g は、「ここ」への移動を表すことはできないというダイクシスに関する制約を持つため、単一 her と D 複合 her(基本的には hierher)の例は見られないことが理由になっている。ただし、TR/H 以外の現代語訳では her のダイクシスに関する制約が解除される P 複合 her の例(einhergehen, herangehen, herumgehen)が見られる。これは特に NL/BR で多く見られる。

第二の問題は訳者のスタイルの問題である(表の枠付きの出現率)。まず、NL/BR は表 9 の単一 hin+k の出現率(7.7%)と表 10 の単一 her+k の出現率(4.1%)が著しく低い。NL/SCH は表 10 の her+k 総数の出現率(6.8%)が比較的低い。以上の特徴は、前節の表 6 の hin/her+g/k 総数を対象にした統計で見られた NL/BR, NL/SCH の特徴に反映している。加えて、TR/KR は表 9 の P 複合 hin+k の出現率(9.5%)が著しく低い。⁸ さらに、NL/SCH と TR/H は表 9 の hin+k と表 10 の her+k で、単一、D 複合、P 複合 hin/her の出現率が比較的類似している。

第三は問題は hin/her+g/k の組み合わせごとの違いである。全体的に見て、表 9 の hin+k は D 複合 hin の出現率が高いが、それ以外の組み合わせでは基本的に P 複合 hin/her の出現率が高い。⁹ また、表 7 の hin+g の出現率は全体的に類似している。一方、表 9 の hin+k, 表 10 の her+k は、hin/her+g/k の組み合わせ、現代語訳の違いにより、バラつきが比較的大きい。以上、表 7 から 10 の特徴を三つ見たが、以下では、D 複合 hin+k, P 複合 her+k, 単一 her+k に対象を絞り、さらなる考察をおこなう。

3.3. D 複合 hin+k と dar

上で、表 9 の hin+k はどの現代語訳でも D 複合 hin+k の出現率がもっとも高いことを見たが、D 複合 hin は基本的に現代語の D 複合 hin(dorthin/dahin)に対応する中高語の dar と相関関係が強い。D 複合 hin+g のデータも合わせて挙げるが、表 11 は、表の左から現代語訳の D 複合 hin+g(k)の出現数、現代語訳の D 複合 hin+g(k)が原文では dar+g(k)である例の数、ならびに後者を前者で割った dar 率である。表を見ると、どの現代語訳でも hin+k で dar 率が高

⁸ ただし、上でも述べたように母集団の数、出現数が少ないため出現率の妥当性には疑問も残るが、少なくとも、NL/BR は単一 hin/her を避ける傾向があり、NL/SCH の her+k の出現率は他の訳と異なると言ってもよいであろう。

⁹ ただし、NL/SCH と TR/H では P 複合 hin+k の出現率が D 複合 hin+k の出現率と同じである。

い。原文の **dar** の影響が見られるということである。また、D 複合 **hin+k** の出現率が比較的高いのは、この場合の **k** は、**gelangen, erreichen** が類義語になる、到着が焦点化された用法の場合が多いことも理由になっていると考えられる。移動が生じていることを前提に移動主体が到着点に到着したことを焦点化するこの用法では、P 複合 **hin** を用いて到着点の様相を表示する必要性が弱まり、相対的に D 複合 **hin** の出現率が高まるということである。¹⁰

	D 複合 hin+g	原文 dar+g	dar 率	D 複合 hin+k	原文 dar+g	dar 率
NL/BR 現訳	7	4	57.1%	8	6	75.0%
NL/SCH 現訳	9	4 ¹¹	44.4%	4	3	75.0%
TR/KR 現訳	7	3	42.9%	14	10	71.4%
TR/H 現訳	7	1	14.3%	5	3	60.0%

表 1 1 現代語訳 D 複合 **hin+g/k** と原文 **dar+g/k** の出現数（率）

3.4. P 複合 **her+k** と移動過程系 P

表 7 から 1 0 の P 複合 **hin/her+g/k** を見ると、表 1 0 の P 複合 **her+k** は他の組み合わせと比べて特に NL/BR と TR/KR で出現数が著しく多く、出現率も高いことが特徴的である。この特徴は、表 7 から 1 0 の P 複合タイプの部分を抜き出し、総数、組み合わせごとの出現数、後者を前者で割った出現率として挙げた表 1 2 から確認できる。

	P 複合 hin/her+g/k 総数	P 複合 hin+g 数(率)	P 複合 her+g 数(率)	P 複合 hin+k 数(率)	P 複合 her+k 数(率)
NL/BR 現訳	49	8 (16.3%)	7 (14.3%)	4 (8.2%)	30 (61.2%)
NL/SCH 現訳	22	6 (27.3%)	6 (27.3%)	4 (18.2%)	6 (27.3%)
TR/KR 現訳	44	11 (25.0%)	2 (4.5%)	2 (4.5%)	29 (65.9%)
TR/H 現訳	37	16 (43.2%)	0 (0%)	5 (13.5%)	16 (43.2%)

表 1 2 現代語訳 P 複合 **hin/her+g/k** の総数と P 複合タイプごとの出現数（率）

以上のように、P 複合 **her+k** の出現数（率）は特徴的だが、さらにもう一つの特徴がある。以下、P 複合タイプにおける P のタイプ、出現数の統計を提示し、P 複合 **her+k** にみられるさらなる特徴について考察する。

下の表 1 3 から 1 6 は、P 複合 **hin/her+g/k** に現れる P のタイプとその出現数、ならびにそれぞれの P 複合 **hin/her** を移動過程系 P 複合 **hin/her** で割った移動過程系 P 率の表である。移動過程系 P 複合 **hin/her** とは、表の中で枠で囲まれている **heran, herbei**¹², **hinab/herab**,

¹⁰ このように考えると、Latzel (1979) らが指摘するように **hin** 自体にも代名詞的性質があるため、D 複合 **hin(dorthin/dahin)**ではなく単一 **hin** で訳しても文意はほとんど変わらないと思われるが、**dar** の影響で D 複合 **hin** の出現率のほうが高くなっていると考えられる。いずれにせよ **dar** 自体の考察も含め、**hin/her** と **dar** の関係の考察は今後の課題としたい。

¹¹ 現代語訳が D 複合 **hin+g** であるが原文は **dar+k** である一例を含む。

¹² **herbei** を移動過程系 P とするかは議論の余地があるが、ここでは移動過程系 P に分類する。詳しい考察は

hinauf/herauf, hinunter/herunter, hinüber/herüber である。移動過程系 P は到着点への移動の過程を表示することに特徴がある。hinab/herab, hinauf/herauf, hinunter/herunter ではさらに上昇/下降という上下関係に関する性質も加わっている。一方、特に hinaus, hinein は起点、着点の空間様態を表示している点で移動過程系 P とは質的に異なっている。

また、訳者が原文の影響を受けることが考えられるため、現代語訳の P 複合 hin/her の箇所から原文の同一箇所に戻り、原文でも同じ P が用いられているかを確認した。原文ではほとんどの場合 hin/her が現れていない¹³が、表のカッコ付きの数字は P の出現数のうち原文でも同じ P が用いられている内数である。例えば、表 1 6 の TR/KR の herein9(6)は、現代語訳の herein は 9 例あり、そのうち 6 例は原文でも同じ in になっているということである。¹⁴ なお、カッコ付き数字がない P の原文は、現代語訳とは異なる P が現れているものが若干あるが、大多数は P が現れていない。

	P 複合 hin+g に現れる P のタイプと出現数	計	移動過程系 P 率
NL/BR	hinab1(1), hinauf1, hinüber1, hinunter1(1), hinaus2, hinein2	8	50.0%
NL/SCH	hinab1(1), hinaus1, hindurch1, hinein1, hinweg2	6	16.7%
TR/KR	hinab1, hinauf1, hinüber1, hinunter1, hinaus3, hinein4	11	36.4%
TR/H	hinunter2, hinaus10, hinein4,	16	12,3%

表 1 3 現代語訳 P 複合 hin+g

	P 複合 her+g に現れる P のタイプと出現数	計	移動過程系 P 率
NL/BR	heran1 einher6	7	14.3%
NL/SCH	heran2, herunter1, einher2, heraus1	6	50.0%
TR/KR	herum2	2	0.0%
TR/H	なし	0	12,3%

表 1 4 現代語訳 P 複合 her+g

	P 複合 hin+k に現れる P のタイプと出現数	計	移動過程系 P 率
NL/BR	hinüber1, hinaus1, hinzu2	4	25.0%
NL/SCH	hinein1, hinzu3	4	0.0%
TR/KR	hinüber1, hinein1(1)	2	50.0%
TR/H	hinüber2, hinzu3(1)	5	40.0%

表 1 5 現代語訳 P 複合 hin+k

今後の課題としたい。

¹³ hin/her の発達には、原文では hin/her が付加されていない P に現代語訳では hin/her が付加されるという発達の仕方もある。詳しくは渡辺（印刷中）とそこで挙げられている参考文献を参照されたい。

¹⁴ 以下では原文 nider→現代語訳 ab/unter は同じ P としている。

	P 複合 her+k に現れる P のタイプと出現数	計	移動過程系 P 率
NL/BR	<u>heran</u> 12, <u>herbei</u> 7, <u>herab</u> 2(2), <u>herauf</u> 2, heraus4, herein2(1), einher1	30	76.7%
NL/SCH	<u>heran</u> 3, <u>herab</u> 2(1), herein1(1)	6	83.3%
TR/KR	<u>heran</u> 12, <u>herbei</u> 6, <u>herab</u> 1, <u>herüber</u> 1, herein9(6)	29	69.0%
TR/H	<u>heran</u> 4, <u>herbei</u> 3, <u>herunter</u> 3, herein5(5), heraus1	16	62.5%

表 1 6 現代語訳 P 複合 her+k

以上、表 1 3 から 1 6 を見ると、P 複合 her+k の移動過程系 P 率は他の P 複合タイプよりも高いことがわかる。P 複合 her+k の原文ではほとんどの例で P が現れていないが、訳者はコンテキストから当該の k は移動過程を表していると判断し、原文にはない移動過程系 P を付加していることになる。

3.5. her+k の細分化と単一 her+(g→k)の様相

her+k は二つのタイプに細分化可能である。¹⁵ すなわち、現代語訳では同じ her+k になるが、原文に遡ると原文では g であったものが k で訳される場合と、原文では k であったものが同じ k で訳される場合である。以下、表 1 7、1 8 はこの細分化に従って her+k の表 1 0 を分割した統計である。

	k 総数	her+(k→k)総数		単一 her		D 複合 her		P 複合 her	
NL/BR 現訳	263	31	11.1%	1	<u>3.2%</u>	14	45.2%	16	51.6%
NL/SCH 現訳	293	9	3.1%	4	44.4%	3	33.3%	2	22.2%
TR/KR 現訳	274	29	10.6%	1	<u>3.4%</u>	5	17.2%	23	79.3%
TR/H 現訳	219	28	12.8%	5	17.9%	13	46.4%	10	35.7%

表 1 7 her+(原文 k→現代語訳 k)の出現数 (率)

	k 総数	her+(g→k)総数		単一 her		D 複合 her		P 複合 her	
NL/BR 現訳	263	18	6.8%	1	<u>5.6%</u>	3	16.7%	14	77.8%
NL/SCH 現訳	293	11	3.8%	5	45.5%	2	18.2%	4	36.4%
TR/KR 現訳	274	14	5.1%	7	50.0%	1	7.1%	6	42.9%
TR/H 現訳	219	13	5.9%	7	53.8%	0	0.0%	6	46.2%

表 1 8 her+(原文 g→現代語訳 k)の出現数 (率)

最初に、訳者のスタイルの問題を見ておこう (表の枠付きの出現率)。NL/BR は単一 hin の出現率(3.2%, 5.6%)が著しく低い、この傾向は上で見たとおりである。また、表 1 7 では TR/KR の単一 hin も NL/BR と同程度に出現率(3.4%)が低い。¹⁶

¹⁵ 原理的にはその他の組み合わせである hin+g, her+g, hin+k も同様の細分化は可能であるが、これらの組み合わせの場合には一方のデータがないか、ごくわずかであるため考察対象とはしない。

¹⁶ TR/KR は表 9 の hin+k の出現率(9.5%)も著しく低く、TR も BR 同様、単一、D 複合、P 複合 hin/her の出現率のバラつきが比較的大きいと思われる。

全体的には表 1 7 と 1 8 では出現率のバラつきがかなり異なる。すなわち、表 1 7 の $k \rightarrow k$ では訳者別、her のタイプ別のバラつきが比較的大きい。表 1 7 と表 1 8 を統合した表 1 6 でもバラつきが比較的大きかったが、 $k \rightarrow k$ は実数が $g \rightarrow k$ よりも多いため、表 1 5 では $k \rightarrow k$ の性質が強く反映していたということである。一方、 $g \rightarrow k$ の表 1 8 では、NL/BR を除く NL/SCH, TR/KR, TR/H の単一 her と P 複合 her の出現率が類似し、バラつきが小さい。また、P 複合 her の出現率と僅差ではあるが、単一 her がもっとも出現率が高い。単一 her の出現率が高いたとも高いことは、他の表 7 から 1 0、表 1 7 と比べて特徴的である。

それでは、なぜ表 1 8 の her+(原文 $g \rightarrow$ 現代語訳 k) では単一 her の出現率が高いたとも高いのであろうか(NL/BR を除く)。これは、当該の単一 her の箇所を原文に遡ることで理由がわかる。すなわち、NL/SCH の 5 例のうち 2 例は soln と共起し、TR/KR の 7 例のうち 6 例、TR/H の 7 例のうち 5 例は命令形で用いられているが、「ここ」への移動の命令には D 複合 her, P 複合 her では余剰的に感じられることが単一 her の出現率が高いたとも高いことの理由になっていると考えらる。ただし、NL/SCH, TR/KR, TR/H では P 複合 her の出現率も単一 her と同程度に高いが、これにも以下のような理由がある。

表 1 9、2 0 は上の表 1 6 を $k \rightarrow k, g \rightarrow k$ に細分化した場合の統計であるが、ここでは表 2 0 が問題になる。¹⁷ 表 2 0 の NL/SCH, TR/KR, TR/H を見ると、NL/SCH では herab1 と herein1, TR/KR では herab1 と herein3, TR/H では herein5 において原文でも同じ P が現れることがわかる。すなわち、表 1 8 で P 複合 her の出現率が単一 her の出現率に近くなるのは、訳者が原文の影響を受け、原文と同じ P を付加した her を現代語訳でも用いる傾向があることが理由になっているということである。

	P 複合 her+($k \rightarrow k$)における P のタイプと出現数	計	移動過程系 P 率
NL/BR	<u>heran</u> 5, <u>herbei</u> 6, <u>herauf</u> 2, heraus2, herein1	16	81.3%
NL/SCH	<u>heran</u> 1, <u>herab</u> 1	2	100%
TR/KR	<u>heran</u> 11, <u>herbei</u> 5, <u>herüber</u> 1, herein6(3)	23	74.0%
TR/H	<u>heran</u> 3, <u>herbei</u> 3, <u>herunter</u> 3(1), heraus1	10	90.0%

表 1 9 P 複合 her+(原文 $k \rightarrow$ 現代語訳 k)

	P 複合 her+($g \rightarrow k$)における P のタイプと出現数	計	移動過程系 P 率
NL/BR	<u>heran</u> 7, <u>herbei</u> 1, <u>herab</u> 2(2), heraus2, herein1(1), einher1	14	71.4%
NL/SCH	<u>heran</u> 2, <u>herab</u> 1(1), herein1(1)	4	75.0%
TR/KR	<u>heran</u> 1, <u>herbei</u> 1, <u>herab</u> 1(1), herein3(3)	6	50.0%
TR/H	<u>heran</u> 1, herein5(5)	6	16.7%

表 2 0 P 複合 her+(原文 $g \rightarrow$ 現代語訳 k)

¹⁷ 表 1 9 と 2 0 の比較では、いずれにせよ移動過程系 P 率が高いが、表 1 9 の $k \rightarrow k$ のほうが若干高い。

4. おわりに

本稿では、渡辺（印刷中）の補足として、hin/her+g/k を細分化した hin+g, her+g, hin+k, her+k の統計にもとづく考察をおこなった。考察の中心は現代語訳であったが、hin/her+g/k 総数のみを対象とした渡辺（印刷中）の考察では見えなかった、hin/her+g/k の組み合わせの違いによるさまざまな違いが確認された。基本的には、渡辺（印刷中）で見た P 複合 hin/her の発達を確認されたが、あらたに D 複合 hin+k, 単一 her+(g→k) の発達も確認された。さらに、P 複合 her+k の her は他の P 複合タイプとは異なり、P は移動過程系 P の場合が多いことも確認された。また、別の観点からの違いであるが、訳者のスタイルによる出現率の違いもいくつか確認された。

残された課題としては、1) 本稿で使用した資料は NL/BR のそれぞれ二つの現代語訳であったが、さらに別の作品、現代語訳を考察対象にすること、2) 現代語訳に一般的にみられる傾向と訳者のスタイルの傾向の切り分けの検討、3) データの細分化に伴い母集団、出現数が小さくなり妥当性に問題が生じることの検討、4) 翻訳研究の中で本稿でおこなったような考察はどのように位置付けられるかの検討といったものがある。これらの問題の考察は今後の課題としたい。

参考文献（本文で言及したもののみ。その他の参考文献は渡辺（印刷中）を参照されたい）

Hoffmann, W. (2004): Ein mediävistischer Bestseller und sein Konkurrent. Zu den Übersetzungen des 'Nibelungenliedes' durch Helmut Brackert und Siegfried Grosse. In: *Zeitschrift für deutsches Altertum und deutsche Literatur*. Bd. 133, H. 3 (2004), pp. 293-328

Latzel, S. (1979): *Der Gebrauch von „hin“ und „her“ im heutigen Deutsch*. Goethe-Institut.

渡辺伸治（印刷中）: 「gehen/kommen と hin/her におけるダイクシス性と視点性 —現代ドイツ語と中高ドイツ語の比較対照的考察—」『ドイツ文学』166.（日本独文学会）